

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
札幌ブライダル&ホテル観光専門学校		平成20年11月12日		武田 政司		〒 060-0042 (住所) 札幌市中央区大通西9丁目1-11 (電話) 011-232-3334		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人三幸学園		昭和60年3月8日		鳥居 敏		〒 113-0033 (住所) 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-6151		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
商業実務	商業実務専門課程	ホテルエアトラベル科		令和 5(2023)年度	-	-		
学科の目的	「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、学校教育法に基づき、観光業界に従事しようとする者に必要な実践的かつ専門的な知識、技能を教授することによって、明日の観光業界を担う人材を養成することを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格・検定: レストランサービス技能検定、TOEIC、国内旅行業務取扱管理者、インバウンド接客英語検定、マナー・プロトコール検定							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位数、単位いずれかに記入	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			62 単位	87 単位	42 単位	6 単位	0 単位	3 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
80 人	69 人	6 人		0 %	2 %			
就職等の状況	■卒業者数(C) : 23 人							
	■就職希望者数(D) : 21 人							
	■就職者数(E) : 21 人							
	■地元就職者数(F) : 18 人							
	■就職率(E/D) : 100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 86 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 91 %							
	■進学者数 : 1 人							
	■その他							
	(令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無							
	※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: - 受審年月: - 評価結果を掲載したホームページURL: -							
当該学科のホームページURL	https://www.sanko.ac.jp/sapporo-bridal/course/kankou/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数				単位時間			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位時間			
	うち必修授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間			
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数				62 単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				7 単位			
	うち企業等と連携した演習の単位数				1 単位			
うち必修単位数				12 単位				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				0 単位				
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				0 単位				
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				6 単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				8 人			
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				3 人			
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人			
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				2 人			
	計				13 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				13 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。
(1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
(2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
(3)教科書・教材の選定に関する事項
(4)その他、教員としての資質・能力の育成に必要な研修に関する事項等
またより正確に業界における動向や求められる人材要件を把握するため、就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と関係性を深め、幅広く連携を図ることで、業界の求めるニーズを確実に捉え、本校のカリキュラムや授業内容に反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意思を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するに相応しい教育課程の編成を協力して行うものとして位置づけている。
具体的には、審議を通じて示された教育課程編成に係る意見を基に、副校長および各校教務チームによって教育課程およびシラバスの改善素案が作成され、観光分野専門委員会(別紙組織図:各専門委員会)にて提案される。
提案に基づき、観光分野専門委員会にて審議の上、次年度の教育課程およびシラバスに改善内容が反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
土田 史郎	一般社団法人札幌観光協会	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
佐々木 雅美	イビスタイルズ札幌	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
早坂 達	札幌ブライダル&ホテル観光専門学校 副校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
熊木 絢子	札幌ブライダル&ホテル観光専門学校 副校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
圃田 靖子	札幌ブライダル&ホテル観光専門学校 教務主任	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
高橋 優衣	札幌ブライダル&ホテル観光専門学校 学科チーフ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
林 美香	札幌ブライダル&ホテル観光専門学校 学科チーフ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月29日 17:00～18:00

第2回 令和7年2月13日 16:30～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会にいただいた以下の意見について対応を行っている。

・現場力向上に伴うご提案

⇒対応:英語関連の科目で目指す資格について、実用性を身に着けるためにSpeaking&Writhingを検討する。

また企業連携科目を増やし、より社会との結びつきを強めることを検討する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的な指導を施すにあたり、観光業界における実績や、実践的かつ専門的な知識・技術およびその指導能力を有する指導者が得られる企業等を選定し、実践計画の作成から連携を図る。観光業界の求める人材要件に沿った計画、および評価基準・方法を設定し、企業等からのフィードバックに基づいた成績評価を行うことを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

* 授業内容について（1年次に半年間、連携企業先で現場実習を実施し、観光業界に必要な語学や技術を習得する）

* 評価について（連携企業による項目別の評価をもとに最終評価に反映させ、成績認定を行うものとする）

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
手話	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	北海道産の食料生産事情を理解している。北海道産の食材を理解している。	公益社団法人札幌聴覚障害者協会
アウトドア基礎	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	北海道産の食料生産事情を理解している。北海道産の食材を理解している。	ディスカバリーズ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、明日の観光業界を担う人材を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、「研修等に係る諸規程」に基づき、計画的に以下の研修を実施している。

- ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修
- ・企業等から講師を招いた指導力の修得・向上のための研修

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、明日の観光業界を担う人材を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、「研修等に係る諸規程」に基づき、計画的に以下の研修を実施している。

- ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修
- ・企業等から講師を招いた指導力の修得・向上のための研修

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	エアライン業界から見た観光業界の変遷	連携企業等:	株式会社AIRDO
期間:	令和7年3月3日(月)	対象:	担任(14名) 授業担当教員(32名)
内容	観光業界の変遷からみる専門学校に求める人材育成について		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	つながり高め合うこれからの学び	連携企業等:	北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会
期間:	令和6年12月19日(木)	対象:	副校長(1名)、学校事務(2名)
内容	今後求められる多様性と指導力、また地域との繋がりと学ぶ環境について考える		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	札幌の観光からみる求められる人材	連携企業等:	一般社団法人札幌観光協会
期間:	令和7年9月22日(月)	対象:	担任(3名) 授業担当教員(6名)
内容	現在の観光マーケットにおける必要な人材について		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	変化する高校生の理解と専門学校教育の展開	連携企業等:	北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会
期間:	令和7年8月1日(金)	対象:	副校長(1名)、担任(1名) 学校事務(2名)
内容	現代の高校生への理解を高め、社会人基礎力の育成を目指す		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、関連分野の業界関係者及び卒業生、地域に根差した関連企業と共に、学校関係者評価委員会を設置して、教育目標や教育について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。

学校関係者評価は、「専修学校における学校評価のガイドライン」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「実施することを基本方針とする。また評価結果は学校のホームページで公表し、委員会で得られた意見についてはすみやかに集約し、各業務担当者にフィードバックすることで、学校運営の改善に生かすものとする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	(11)国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員会にていただいた以下の意見について対応を行っている。

ご意見: 教員研修の内容と、現場での職員向け研修の差から、現場が求めている人材のご意見を頂いた。

⇒対応: 世間的な動きと会社の動きにはまだギャップがあるため、より現場の方からの研修機会創出を検討する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
中村 宗人	マスダプランニング株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
川原 祥吾	株式会社共立メンテナンス	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
松田 桃香	ホテルモントレ株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.sanko.ac.jp/sapporo-bridal/information/assets/pdf/kankeisya.pdf>

公表時期: 令和7年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供を行うことを基本方針とし、以下の姿を目指す。
1. 学校の指導方針や課題への対応方法等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげること。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標および計画
(2)各学科等の教育	学科概要、カリキュラム、シラバス、客観的な指標の算出方法、卒業要件、目指
(3)教職員	教員数、組織、専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み、実習実技への取り組み
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事
(6)学生の生活支援	生活上の諸問題への対応
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、就学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.sanko.ac.jp/sapporo-bridal/information/>

公表時期: 令和7年5月30日

授業科目等の概要

	#REF!															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			未来デザイン プログラムA	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸 学園の教育理念である「技能と心の調和」 のうち「心」の部分をも身につける。	1 ・ 前	15	1	○			○		○		
2	○			未来デザイン プログラムB	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸 学園の教育理念である「技能と心の調和」 のうち「心」の部分をも身につける。	1 ・ 後	15	1	○			○		○		
3	○			観光総合知識 A	北海道の観光を理解する。観光客を親切に もてなすことができる。	1 ・ 前	30	2	○			○			○	
4	○			観光総合知識 B	北海道の観光を理解する。観光客を親切に もてなすことができる。	1 ・ 後	30	2	○			○			○	
5	○			マナープロト コールA	観光業界で働く上で必要なマナーやプロト コールを習得する	1 ・ 前	30	2	○			○		○		
6	○			マナープロト コールB	観光業界で働く上で必要なマナーやプロト コールを習得する	1 ・ 後	30	2	○			○		○		
7	○			コミュニケー ション演習A	人前での話し方や良好な人間関係の作り方 (コミュニケーション能力)を学ぶ。	1 ・ 前	30	1		○		○			○	
8	○			コミュニケー ション演習B	人前での話し方や良好な人間関係の作り方 (コミュニケーション能力)を学ぶ。	1 ・ 後	30	1		○		○			○	
9			○	観光マーケ ティング	教科書を基に企業の事例をふまえマーケ ティング理論について理解する。マーケ ティング思考の重要性について理解し、自 らもアイデアを出すことができる。	1 ・ 前	15	1	○			○		○		
10			○	一般教養	就職試験対策問題の解法を理解し、社会人 としての言葉や文章の扱いをも身につける	1 ・ 前	30	2	○			○			○	
11			○	ビジネスマ ナー	様々なサービスの現場で求められる知識を 習得し、社会人としての考え方やマナーを 身につける。就職活動で問われる一般常識 問題を理解することができる。	1 ・ 前	30	2	○			○			○	

12			○	キャリアデザインⅠA	就職活動の流れを理解する。 魅力的な履歴書の書き方を習得する。 面接方法が実践できる。	1・前	30	2	○			○		○		
13			○	キャリアデザインⅠB	就職活動の流れを理解する。 魅力的な応募書類（エントリーシートや履歴書）の書き方を習得する。 面接方法が実践できる。	1・後	30	2	○			○		○		
14			○	英語検定対策ⅠA	英語の基礎力を身につける。英語に慣れ親しみ、英語実用技能検定またはTOIECで目標の級また自己ベストを出す	1・前	30	2	○			○			○	
15			○	英語検定対策ⅠB	英語の基礎力を身につける。英語に慣れ親しみ、英語実用技能検定またはTOIECで目標の級また自己ベストを出す	1・後	30	2	○			○			○	
16			○	英語検定対策ⅠC	英語の基礎力を身につける。英語に慣れ親しみ、英語実用技能検定またはTOIECで目標の級また自己ベストを出す	1・前	30	2	○			○			○	
17			○	英語検定対策ⅠD	英語の基礎力を身につける。英語に慣れ親しみ、英語実用技能検定またはTOIECで目標の級また自己ベストを出す	1・後	30	2	○			○			○	
18			○	インバウンド接客英会話A	観光分野様々な場面での英語・専門用語を習得し、観光英語検定3級合格を目指す。	1・前	30	1		○		○			○	
19			○	インバウンド接客英会話B	観光分野様々な場面での英語・専門用語を習得し、観光英語検定3級合格を目指す。	1・後	30	1		○		○			○	
20			○	手話	聴覚障害者の手話という言語を基礎から学び、初歩的な会話ができること、聴覚障害者が社会生活を送る上での様々なバリアについて考察し、理解する。	1・前	30	1		○		○			○	○
21			○	パソコン演習A	検定取得を目指し、基本的な入力方法から書類作成など、パソコンの技能を習得する。	1・前	30	1		○		○		○		
22			○	パソコン演習B	検定取得を目指し、基本的な入力方法から書類作成など、パソコンの技能を習得する。	1・後	30	1		○		○		○		
23			○	観光実践Ⅰ	施設見学や講話を聞き、レポート作成や、グループワーク後に発表など、アウトプットできるようになる。	1・前	45	2		○			○	○		
24			○	アウトドア基礎	野外行動中や旅先など日常生活ではない環境で起こり得る傷病について理解し、基本的な応急手当ができるようになる。観光地を知り、観光業の楽しさを知る	1・前	30	1			○		○		○	○
25			○	営業スキル	マーケティング理論について学び、各企業の事例を通じて理解する。	2・後	15	1	○			○		○		

26			○	キャリアデザインⅡA	就職活動に向けて具体的な対策と社会人になるための知識を身につける。	2・前	15	1	○			○		○		
27			○	キャリアデザインⅡB	就職活動に向けて具体的な対策と社会人になるための知識を身につける。	2・後	15	1	○			○		○		
28			○	観光総合探求	観光業界や地域社会に関する多様なテーマを扱い、調査・分析・企画・立案・発表を通して、実践的な課題解決能力を養う。	2・後	30	2	○					○		
29			○	英語検定対策ⅡA	英語の実践力を身につけ、問題に慣れ、実力を発揮することができる。	2・前	30	2	○			○			○	
30			○	英語検定対策ⅡB	英語の実践力を身につけ、問題に慣れ、実力を発揮することができる。	2・後	30	2	○			○			○	
31			○	フードマイスターA	北海道産の食料生産事情を理解している。北海道産の食材を理解している。	2・前	30	2	○			○			○	
32			○	フードマイスターB	北海道産の食料生産事情を理解している。北海道産の食材を理解している。	2・後	15	1	○			○			○	
33			○	ユニバーサルサービス	様々な身体の特長を持つ方を知り、体験を通し、幅のあるサービスができるようになる。	2・後	30	1		○					○	
34			○	インバウンド接客中国語A	発音の基礎を学び、積極的にアウトプットが出来るようになる。	2・前	30	1		○		○			○	
35			○	インバウンド接客中国語B	発音の基礎を学び、積極的にアウトプットが出来るようになる。	2・後	30	1		○		○			○	
36			○	インバウンド接客韓国語A	発音の基礎を学び、積極的にアウトプットが出来るようになる。	2・前	30	1		○		○			○	
37			○	インバウンド接客韓国語B	発音の基礎を学び、積極的にアウトプットが出来るようになる。	2・後	30	1		○		○			○	
38			○	観光英会話ⅡA	添乗英語の特徴と英語が必要な場面を理解し簡単な会話ができる。	2・前	30	1		○		○			○	
39			○	観光英会話ⅡB	添乗英語の特徴と英語が必要な場面を理解し簡単な会話ができる。	2・後	30	1		○		○			○	

40			○	観光英会話ⅡC	添乗英語の特徴と英語が必要な場面を理解し簡単な会話ができる。	2・前	30	1		○		○			○	
41			○	観光英会話ⅡD	添乗英語の特徴と英語が必要な場面を理解し簡単な会話ができる。	2・後	30	1		○		○			○	
42			○	プレゼンテーションA	社会人として必要なPowerPointの知識とプレゼンテーションスキルを習得する。	2・前	30	1		○		○		○		
43			○	プレゼンテーションB	パワーポイントを使用した実践的なプレゼンテーションができることができる。	2・後	30	1		○		○		○		
44			○	レストランサービス検定対策Ⅰ	翌年8月の学科試験合格に向けて、実務経験1年レベルの料飲サービスに関する知識を習得する。	1・後	30	2	○			○		○		
45			○	エンターテイメント演習Ⅰ	バーの基礎知識を身につけ、お客様に説明ができる。	1・後	30	1		○		○		○		
46			○	ホテル実務実習	ホテル業界の基礎知識を身につけ、ホテル業務について実習を通して体得する。マネジメントの観点からホテルを理解する。	1・後	30	1		○		○		○		
47			○	レストランサービス演習Ⅰ	実技試験合格に向けて、実務経験1年レベルの料飲サービスに関する基本動作と技術を習得する。	1・後	30	1		○		○			○	
48			○	ホテルマネジメントA	ホテルマネジメント技能検定に合格し、マネジメントの観点からホテルを理解する。実技授業を通して実践的な知識・技術を習得する。	2・前	30	2	○			○			○	
49			○	ホテルマネジメントB	ホテルマネジメント技能検定に合格し、マネジメントの観点からホテルを理解する。実技授業を通して実践的な知識・技術を習得する。	2・後	30	2	○			○			○	
50			○	レストランサービス検定対策Ⅱ	国家検定試験受検に向けて、レストランにおける料飲ならびにサービスマナーに関する基本的な知識を習得する。	2・前	30	2	○			○		○		
51			○	エンターテイメント演習Ⅱ	バーの基礎知識を身につけ、お客様に説明ができる。また自身のオリジナルモクテルをコンペティション形式で提供できる。	2・前	30	1		○		○		○		
52			○	日本文化演習A	日本文化を学び・体験することでホテルに来る観光客をもてなせるようになる。	2・前	30	1		○		○		○		
53			○	日本文化演習B	日本文化を学び・体験することでホテルに来る観光客をもてなせるようになる。	2・後	30	1		○		○		○		

54			○ レストランサービス演習ⅡA	国家検定実技試験受検に向けて、レストランにおける料飲サービスに関する基本的な動作を習得する。	2・前	30	1		○		○			○	
55			○ レストランサービス演習ⅡB	国家検定実技試験受検に向けて、レストランにおける料飲サービスに関する基本的な動作を習得する。	2・後	30	1		○		○			○	
56			○ 国内地理Ⅰ	国家試験・国内旅行業務取扱管理者試験の合格を目指すだけでなく、就職試験や実務上最低限必要な国内の観光地に関する知識を身につける。	1・後	30	2	○			○			○	
57			○ JR運賃計算Ⅰ	JRをはじめとする各種交通機関の運賃料金、宿泊料金を理解し国家試験合格を目指す。	1・後	30	2	○			○			○	
58			○ 旅行業法Ⅰ	旅行業等を営む者にとって遵守すべき事柄を規定した法律であることを理解しつつ、目的やそれらを達成する為に設けられた制度と旅行実務についての知識を深める。	1・後	30	2	○			○			○	
59			○ 旅行業約款Ⅰ	国内旅行業務取扱管理者合格を目指し、必要な知識を身につける。	1・後	30	2	○			○			○	
60			○ 国内地理Ⅱ	国家試験・国内旅行業務取扱管理者試験の合格を目指すだけでなく、就職試験や実務上最低限必要な国内の観光地に関する知識を身につける。	2・前	30	2	○			○			○	
61			○ JR運賃計算Ⅱ	JRをはじめとする各種交通機関の運賃料金、宿泊料金を理解し国家試験合格を目指す。	2・前	30	2	○			○			○	
62			○ 旅行業法Ⅱ	旅行業等を営む者にとって遵守すべき事柄を規定した法律であることを理解しつつ、目的やそれらを達成する為に設けられた制度と旅行実務についての知識を深める。	2・前	30	2	○			○			○	
63			○ 旅行業約款Ⅱ	国内旅行業務取扱管理者合格を目指し、必要な知識を身につける。	2・前	30	2	○			○			○	
64			○ ツアーデスク・カウンター実務	旅行業への理解を深める。旅行会社勤務に必要な知識やテクニックを学ぶ。	2・前	30	1		○		○			○	
65			○ ツアーコンダクター実務	旅程管理者としての基本を学びながら、国内・海外添乗の実務を学ぶ。	2・後	30	1		○		○			○	
66			○ 北海道プロモーション制作	北海道を訪れるお客様へ楽しんでもらえるプロモーション制作の技術を習得する	2・後	30	1		○		○			○	
67			○ 北海道アクティビティ	北海道のアウトドアに関する基本的な知識を得る。	2・後	30	1			○	○			○	

68			○	エアライン業界総合Ⅰ	エアライン業務と空港旅客業務の基礎知識を習得し、航空業界の仕事をより理解する。	1・後	30	2	○			○			○	
69			○	エアライン面接対策Ⅰ	航空会社が求める人物像を理解し、エアライン採用試験突破のために必要なスキルを体得する。	1・後	30	2	○			○		○		
70			○	エアライン英会話Ⅰ	グランドスタッフとして接客に必要なビジネス英会話ができるようになる。	1・後	30	1		○		○			○	
71			○	空港カウンター演習Ⅰ	グランドスタッフとしての基礎知識を身に付け、カウンターでのチェックイン業務、搭乗ゲート業務、到着業務の基本動作が出来るようになる。	1・後	30	1		○		○			○	
72			○	エアライン業界総合ⅡA	空港旅客業務の基礎知識と空港業務の他職種についての基礎知識を習得する。航空機の機種やメカニズムについての知識を習得する。	2・前	30	2	○			○			○	
73			○	エアライン業界総合ⅡB	空港旅客業務の基礎知識と空港業務の他職種についての基礎知識を習得する。航空輸送の安全と航空保安について学び、安全に対する意識を醸成する。	2・後	30	2	○			○			○	
74			○	エアライン面接対策Ⅱ	航空会社が求める人物像を理解し、エアライン採用試験突破のために必要なスキルを体得する。	2・前	30	2	○			○			○	
75			○	サービス助手	グランドスタッフとして必要なおもてなしの心と介護技術を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
76			○	パーソナルカラー	色に関する知識・法則・技法を理論的かつ実践的に身に付ける。	2・後	30	2	○			○			○	
77			○	エアライン英会話Ⅱ	空港で働く上で外国のお客様に対応できる英語力を身に付ける。	2・前	30	1		○		○			○	
78			○	空港カウンター演習ⅡA	グランドスタッフとして一人一人のお客様に対応できる応用力を身に付ける。	2・前	30	1		○		○		○		
79			○	空港カウンター演習ⅡB	グランドスタッフとして応用力を身に付け、様々な状況において対応できるようになる。	2・後	30	1		○		○		○		
80			○	機内サービス演習Ⅰ	客室乗務員としての基礎知識を身に付け、機内でのサービス業務や保安業務の基本動作が出来るようになる。	1・後	30	1		○		○			○	
81			○	カルチャーレッスン	観光業界で働く上で必要となる国際的な感覚や文化理解を養い、サービス提供に役立てる。	2・後	30	1			○	○			○	

82			○	オーラルプレゼンテーション	英語などの外国語や母語を用いて発表力（話す力・伝える力）を体系的に養う。	2・後	30	1		○		○			○	
83			○	機内サービス演習ⅡA	客室乗務員として一人一人のお客様に対応できる応用力を身に付ける。	2・前	30	1		○		○			○	
84			○	機内サービス演習ⅡB	客室乗務員として応用力を身に付け、様々な状況において対応できるようになる。	2・後	30	1		○		○			○	
85			○	インターンシップⅠ	社会人として必要な基礎スキルが身に付いている。相手の立場に立った物の考え方ができる。社会へ出てから必要な言葉遣いや接客マナーを実践できる。	1・後	60	2			○		○		○	○
86			○	インターンシップⅡ	社会人として必要な基礎スキルが身に付いている。相手の立場に立った物の考え方ができる。社会へ出てから必要な言葉遣いや接客マナーを実践できる。	2・前	60	2			○		○		○	○
87			○	インターンシップⅢ	社会人として必要な基礎スキルが身に付いている。相手の立場に立った物の考え方ができる。社会へ出てから必要な言葉遣いや接客マナーを実践できる。	2・後	60	2			○		○		○	○
合計						87	科目	138 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 本校に修業年限以上在学し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に、卒業の認定を行う。 卒業に必要な単位数は科目配当表に示すとおりとする。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 原則として教育課程に定められている順序で履修する。 また、手話・アウトドア基礎については必履修科目としている。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。